

2011年度

科目名	人間と社会B		
担当教員	岡島 克樹		
配当	人社1	コード	31007
開期	後期	講時	水曜日1限
		単位数	2
授業テーマ	(1)人間社会学の基盤とは何か？(2)大学レベルの学習とは何か？(3)小論文の書き方とは何か？		
目的と概要	<p>大学生活にも一定慣れた1回生の後期に開講される本講では、初年次教育の一環として、学習到達目標として(1)人間社会学部の教育目標や人間社会学の基本を理解できるようになる、(2)大学レベルでの学習を行ううえで不可欠な「考える」「伝える」ということに必要な知識とスキル、態度を持つようになるというものを設定し授業を実施する。より具体的には、(1)については人間の行動と社会の現象について関心を深めるとともに、その原因を「社会化」させて捉えることの重要性を理解できるようになること、(2)については「考える」ということの重要性に気づき、「考える」ためのスキルの一部が使えるようになること、さらに、考えをまとめ、発表するためのKJ法やメモ・ノートの取り方、まとめた内容を文章化するための小論文の書き方、文献からの情報を自分の文章に持ち込む際に求められる倫理、参考文献明示の方法、要約の仕方を理解できるようになることを学習到達目標に設定する。</p>		
成績評価法	期末レポート(70%)と平常点(30%)		
テキスト	とくに定めない。		
参考書	適宜、紹介する。		
履修に当たっての注意・助言/準備学習	<p>本講義は上記のようにKJ法の実践等を含むが、その際は、チームにわかれて課題に取り組んでもらう。自分ひとりの成長だけを考えるのではなく、チームのメンバー全員の成長を目指しつつ、それが実現できるように自分の役割と責任をしっかりと認識して積極的に授業に取り組んでください。</p> <p>この授業は社会にある様々な課題の原因について探究するので、普段から新聞を読み、ニュースを見て準備しておくことが望ましい。</p>		
講義計画			
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション (教員自己紹介、ノートの取り方のコツ、協同学習と一斉授業、評価方法等) 2. よい小論文を書くための5原則・小論文の構造に関する講義 3. 課題1 (その時に話題になっている社会経済・政治問題) の解説、KJ法のやり方解説 4. つづき: KJ法の実践 5. つづき: KJ法の結果から得られた本論の書き方提示、トピックセンテンスの重要性に関する講義 6. つづき: 序論の書き方講義、引用・要約の方法解説、要約練習 7. つづき: 小論文書きの実践 (1回目) 8. 「考える」ことの重要性とコツ、「理論」とは何かに関する講義 9. 課題2 (「HIVを含む性感染症や望まない妊娠の増加という現象とその原因とは何か」) の解説 10. つづき: KJ法の実践 (2回目) 11. つづき: KJ法の結果から得られた本論の書き方提示・小論文書きの実践 (2回目) 12. 課題3 (「児童虐待の増加という現象とその諸原因とは何か」) の解説、KJ法の実践 (3回目) 13. つづき: KJ法の結果から得られた本論の書き方提示・要約の練習 (2回目) 14. つづき: 小論文書きの実践 (3回目) 15. 本講の意義の確認 			